

平成29年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	信州DCを活用した伊那谷観光推進事業
事業主体 (連絡先)	伊那市 商工観光部 観光課 78-4111 内線 2435, 2436
事業区分	(6) ア特色ある観光地づくり
事業タイプ	ソフト
総事業費	2,747,668円 (うち支援金: 2,198,000円)

事業内容

JR中央西線を利用する登山客及び観光客の南アルプスへのアクセスの不便さを解消すべく、利便性の向上と、南アルプス及び伊那谷へ多くの観光客を誘客させるため、木曽福島駅から南アルプス林道バスの営業所がある仙流荘とを直接結ぶ二次交通バスを運行する。また、伊那と木曽の近隣観光や交流を促進する地域の足としても運行し地域活性化へとつなげる。

- ・7月15日(土)～11月5日(日) 51日間運行
- ・延べ75便 395人乗車



【 運行の様子 】

【目標・ねらい】

- ①公共交通利便性の向上
- ②観光客の増加
- ③日帰り登山の実現

事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

木曽福島駅と南アルプス林道バス発着点である仙流荘を直接二次交通で結ぶことにより、鉄道を利用した関西、中京圏方面からのアクセスが飛躍的に向上します。これにより北沢峠への日帰り軽登山が実現可能となり、パノラマライナーの利用率向上に大いに期待できるものである。初年度である本年は天候に恵まれなかったこともあり、目標値には届かなかったものの目標の約80%の乗車率と手ごたえを感じる結果となった。

※自己評価 【 B 】

【理由】

- ・目標の約80%の乗車率
- ・中京圏から日帰りの軽登山が可能となった

今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

関西、中京圏へのより効果的なPR展開を図り、パノラマライナーの利用率向上を図る。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」：予定を上回る効果が得られた 「B」：予定していた効果が得られた

「C」：一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある